

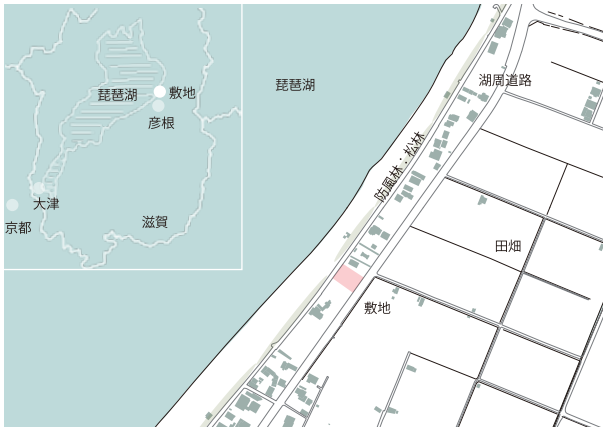


審査委員特別賞

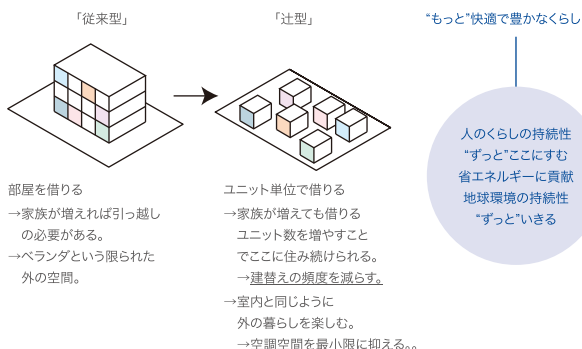
滋賀県立大学
櫻井 陸人

【作品名】
びわ湖畔に集まり棲まう家

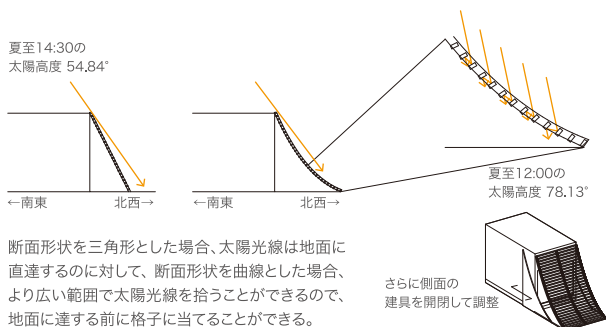
配置図



1. サステナブルな集合住宅



2. 格子により風と光を砕く



設計コンセプト

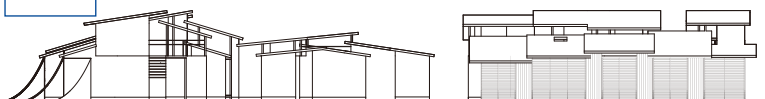
日本一大きな淡水湖—琵琶湖。その風景や生態系は素晴らしいものである。そして、琵琶湖畔に住む人々のかつての生活はこの美しく大らかな湖に寄り添って営まれていた。しかし昭和以降、琵琶湖沿岸には湖周道路やフェンス・湖岸堤防・防風林等が整備され、人々の生活は琵琶湖と分断され大きな変化を遂げてしまった。

そのため、物理的には水面が近くてもすぐに降りていきたり景色を眺められたりすることができる敷地は非常に少ない。それに対し、本敷地は防風林の切れ目に位置し景色も良くすぐに水面

に降りていく。しかし、そのために琵琶湖からの北北西の風が容赦なく吹き付ける敷地でもある。

今回の計画では、「琵琶湖」という強烈な環境要素に近接する敷地において、通常は防風林により防がれる風を建築のデザインにより制御し取り込むこと、また、ライフスタイルや家族構成の変化によって住空間の縮小と拡張が可能な住まい手の転入出に柔軟に対応する構成とすることで、この地に根差し世代を越えて受け継がれていく集合住宅のあり方を提案する。

立面図



コロナ禍における住空間の再考により半屋外空間や中間領域の価値が見直され、その需要は高い。温暖化による影響で、夏場の冷房のエネルギー消費量は冬場の暖房のエネルギー消費量と同等となると予測も立てられている。このような状況で冷房を用いずに過ごす半屋外空間を設けることの意義と重要度は今後高まると言える。本提案では多様な半屋外空間を多く設けることを、「辻」という街路の構成を住空間に応用することで実現する。

審査委員講評

分棟配置された集合住宅を更に細分化しつつ地域の要素から配置を導き、さらにCFD解析による通風と採光をデザインによってコントロールすることで魅力的な提案に昇華させている点が素晴らしい。

一方、格子面以外のファサードデザインや内部空間と連動した屋根形態を踏まえた建築の全貌が理解できる表現があれば更に良かったように思います。